

知床周辺海域の ホットスポット形成

海洋環境から高次捕食者まで

● 参加無料・申込不要

知床半島およびその周辺海域(距岸3kmまで)は2005年に世界自然遺産に登録され、低次生産から魚類まで生産性・種多様性が高く、また海鳥や海棲哺乳類などの高次捕食者に加え、漁業も集中する特異な海域である。本海域は、沿岸域、沖合表層域ともに「生物多様性の観点から重要度の高い海域 (Ecologically or Biologically Significant marine Areas (EBSA) identified by Japan)」として抽出されており、生物学的ホットスポットとなっている。本ミニシンポジウムでは、知床周辺海域の海洋物理的特徴からプランクトン、魚類、高次捕食者まで、どのようなことが明らかになっているかを紹介するとともに、生物多様性保全のための今後の研究の方向性と将来展望についても議論する。

企画責任者:三谷曜子(京大野生研)・山村織生(北大院水産)

日時

令和5年 **3/31** (金) 13:30-16:40

会場

東京海洋大学品川キャンパス

13:30-13:35

開会の挨拶・

企画の趣旨説明

三谷曜子(京大野生研)

座長: 山村織生(北大院水産)

13:35-14:00

1 夏季オホーツク海北海道沿岸の水塊:

タートル海峡水・海底混合層・北部根室海峡に注目して

中村知裕(北大低温研)

14:00-14:25

2 初夏の南部オホーツク海におけるプランクトン現存量と糞粒を介した物質輸送に関する研究

山口 篤(北大院水産)

14:25-14:35 休憩

座長: 山口 篤(北大院水産)

14:35-15:00

3 夏の知床半島周辺海域における魚類相

櫻木雄太(北大院環境)・

川上達也・笠井亮秀・山村織生(北大院水産)

15:00-15:25

4 海鳥にとっての北海道沖オホーツク海の重要性

綿貫 豊(北大院水産)・

西澤文吾・大門純平(水産機構)・

風間健太郎(早大人科)

15:25-15:50

5 なぜ知床半島周辺海域に海棲哺乳類が多く集まるのか

三谷曜子(京大野生研)・

古巻史穂・櫻木雄太(北大院環境)

15:50-16:00 休憩

16:00-16:35

総合討論 座長: 三谷曜子(京大野生研)

16:35-16:40

閉会の挨拶 山村織生(北大院水産)

一般の方も参加いただけます。オンライン配信はありません(対面のみ)。

くわしくは大会公式ウェブサイトをご確認ください。

<https://www.gakkai-web.net/jsfs/kaikoku/>

